

平成31年度（令和元年度） 6年生「全国学力・学習状況調査の結果」より

4月18日に、6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果が返却されました。今年度は、国語・算数と生活習慣を問う児童質問紙調査が実施されました。本校の子ども達の状況を報告させていただきます。

総合結果（国語・算数）

国語は、全国平均正答率を上回ったものの、京都市の平均正答率は下回りました。算数においては、全国及び京都市の平均正答率を上回りました。無回答率は大変低く、一生懸命問題に向き合い、最後まであきらめないで取り組もうとする姿勢が見られます。

国語科

「必要な情報を得るために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の考えをまとめたりすることができる」という『話すこと・聞くこと』の領域の問題が大変よくできていました。また、「文と文との意味につながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」という問題も大変よくできていました。

その一方で、「目的や意図に応じ、調べたことを報告する文章を、図表やグラフを用いて、自分の考えが伝わるように工夫して書くことができる」という『書くこと』の領域、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる」という『読むこと』の領域については、京都市平均を下回りました。

算数科

全体的によくできていました。特に、「図形の性質や構成要素に着目して、図形を観察・構成したり、図形について筋道を立てて考察し表現したりすることができる」という『図形』に関する問題、「加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる」「計算の仕方を解釈して適用したり、発展的に考察したりすることができる」という『数と計算』『数量関係』に関する問題においては、京都市平均に比べ、大変高い正答率でした。その一方で、「単位量当たりの大きさ」に関する問題においては、京都市平均を下回りました。

児童質問紙調査から

「学校のきまりを守っていますか」・「家の人と学校での出来事について話をしますか」・「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の「あてはまる」が全国に比べても大変高く、児童の規範意識の高さ、家庭や地域を大切にしていることが窺い知れます。

今後に向けて

本校は、今年度より『夢に向かって自ら未来を切り拓く子どもの育成』という学校教育目標のもと、新たなスタートを切り、保護者や地域の皆様のご協力を得て、教職員一丸となって取組を進めています。

全国学力・学習状況調査の児童質問紙調査では、「学級の友達との間で話す活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」・「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる」・「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」の「あてはまる」が全国に比べ、10%前後上回っており、これまでの取組の成果が今回の結果にも表れていると言えます。

今後も、学習の中での「話し合い活動」の充実、集会活動・縦割り活動等の異学年との『話す・聞く』機会の設定、生活科・総合的な学習の時間、生活単元学習を中心とした地域の方々との『話す・聞く』機会の設定、といった『自分の思いや考えを伝え、相手の思いや考えを受け止める』学習環境をつくりあげていきます。さらに、今回課題となった国語科の『書く・読む』の領域や算数科においては、普段の授業はもちろんのこと、朝の「チャレンジタイム」を有効に活用し、基礎学力の定着を図るとともに、「読書タイム」等で読書を推進しながら子ども達の可能性を広げていきたいと思います。

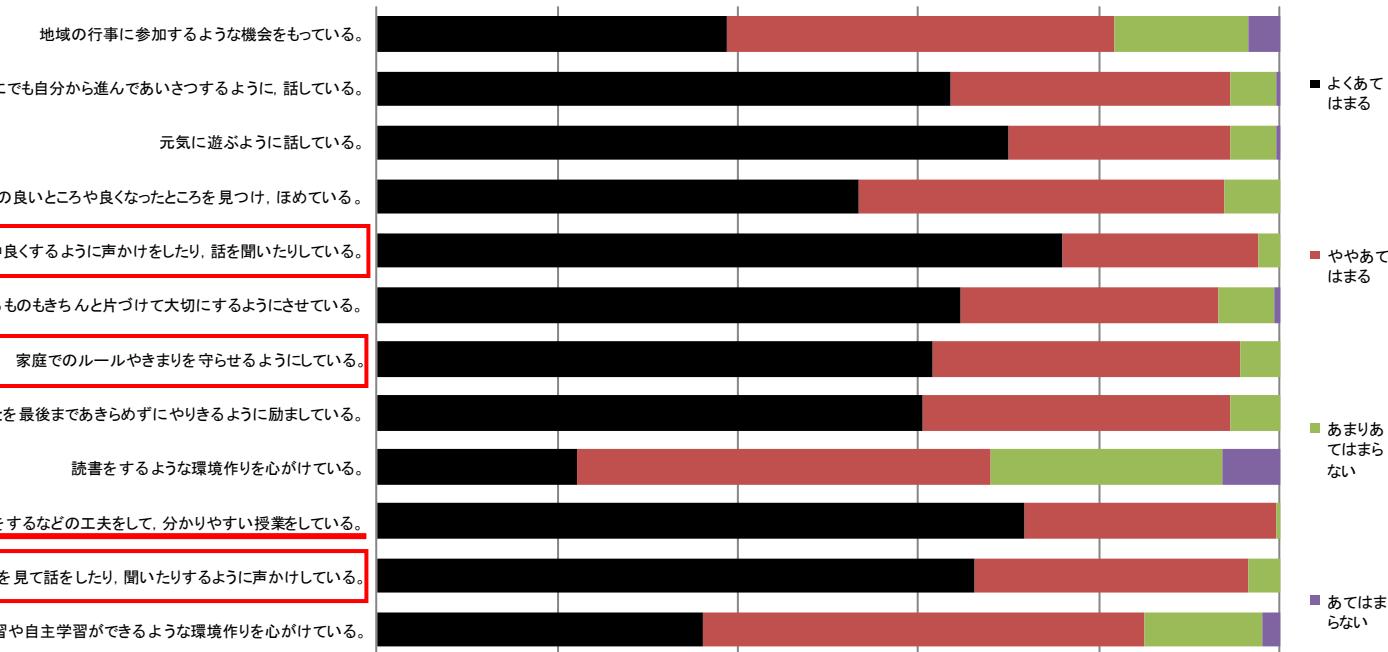
引き続き、保護者や地域の皆様のご協力をいただきながら、子どもたちの確かな学力の向上に向けて、学習活動の充実・学習環境の整備に努めていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

令和元年度（前期） 紫野教育評価の集計結果のご報告

今年度も、学校評価を実施させていただきました。学校評価は、学校・家庭・地域が自らを振り返り、子どもたちのためにできることを考え、共に行動するきっかけとするものです。このことが、地域ぐるみで子どもを育てるにつながると考えております。

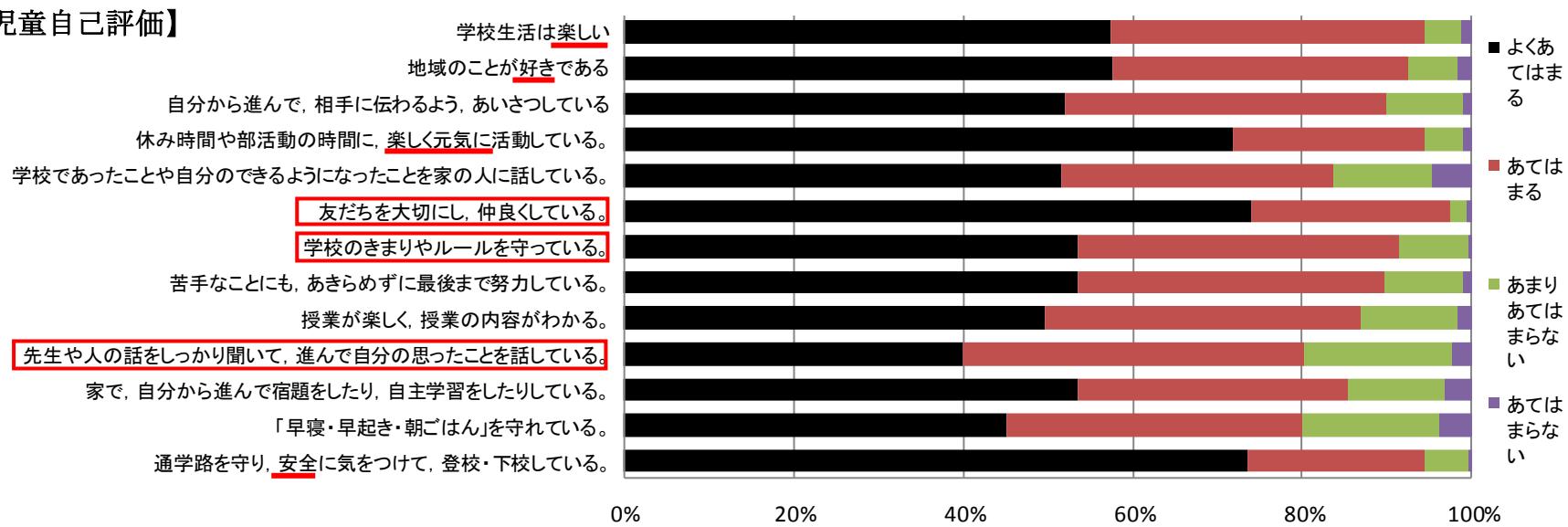
今年度も、多くの保護者の皆様にご回答いただき、ありがとうございました。集計結果を報告させていただきます。

【保護者】



保護者アンケートで「よくあてはまる」「ややあてはまる」の評価が高かったのが「友達を大切にして、仲良くするように声かけをしたり、話を聞いたりしている」、「お子さんに相手の顔を見て話をしたり、聞いたりするように声かけしている」、「家庭でのルールやきまりを守らせるようにしている」です。この項目に関連する児童アンケートを見ると、「友だちを大切にし、仲よくしている」は一番高い数値を示していました。「先生や人の話をしっかり聞いて、進んで自分の思ったことを話している」の評価は「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%に到達しました。また、「学校のきまりやルールを守っている」の評価も90%を超える、大変高いものとなっています。この結果から考えると、各ご家庭で大切にし、お子様に話している「思い」が、子どもにもしっかりと伝わっていて、子どもも大切にしているということが言えるのではないでしょうか。

【児童自己評価】



児童アンケートを見ると、すべての項目において「よくあてはまる」「あてはまる」が80%に到達もしくはそれを超えた結果となりました。その中でも特に評価が高かったのが、「学校生活は楽しい」、「地域のことが好きである」、「休み時間や部活動の時間に、楽しく元気に活動している」です。子ども達が学校生活を前向きに楽しんでいることが窺い知ることができます。今年度より統合した新しい紫野小学校の学習環境が、児童にいい刺激と新鮮さを与えていたのではないかとも考えられます。

「地域のことが好きである」については、校区が広くなり活動範囲も広がったことで、交友関係とともに遊ぶ場所も広がったと思います。さらに、「生活科・総合的な学習の時間、生活単元学習」の学習で、地域のことを調べたり、地域の方々のお話を聞いたりする等の機会を多くもっており、地域に対する興味・関心も深まっているのではないでしょうか。また、その校区の中でも、安全に登下校しようとする意識も高いようです。これは、保護者、地域の方々のご協力なしでは実践できないことだと感じております。見守り隊、アルタークラブの方々はじめ、いつもご協力ありがとうございます。

全国学力・学習状況調査のところでも触れましたが、『話す・聞く力』は着実についてきています。今後も、月1回の「児童集会」や「人権集会」「学習発表会」等、全校児童が集まる場で、自分の考えやできるようになったことを発表する機会を設けていきます。また、保護者アンケートの「先生は、1時間のめあてを児童に伝え、分かりやすい板書をするなどの工夫をして、分かりやすい授業をしている」の項目で大変高い評価をいただきました。学習の場面でも、ペア、グループ、クラス全体等、自分の考えを発表する場面を多く設ける工夫をする等の取組を継続し、指導者が良い点をたくさん見つけて褒めることで自信をつけさせる等、意欲的に発表できる環境を作る努力をしていきたいと思います。

「自学自習」に関するアンケート項目については、「よくあてはまる」「あてはまる」が、保護者・児童・教職員それぞれが80%に到達しています。今後もより一層、子どもたちが意欲的に自学自習に取り組めるよう働きかけ、習慣として定着できるようにしたいと考えています。

また、今年度より「ノート検定（あしあと検定）」を実施しております。こちらの方も、保護者・児童・教職員が意識することで、「学びのあしあと」を残せるノート作りを定着させていき、このような取組を継続させることで、全国学力・学習状況調査で課題として挙がった『書く・読む力』をつけていきたいと考えています。

教職員の評価についても、自信を持って自己を評価できるよう、より一層の努力と研鑽を重ね、子どもたちが主体的に学ぶことができる授業を展開し、学校教育目標に向かっていけるよう努力を続けていきたいと思います。

保護者、地域の皆様、今後とも紫野学校教育にご支援・ご協力の程よろしくお願ひいたします。

【教職員】

